

第 38 回豊橋市小中高特連携教育推進協議会議事要録

令和 8 年 2 月 2 日 開 催

豊 橋 市 教 育 委 員 会

第 38 回 豊橋市小中高特連携教育推進協議会

日時	令和 8 年 2 月 2 日（月）午後 2 時 0 0 分～午後 3 時 3 0 分
場所	男女共同参画センター
出席者 敬称略	<p>教育長 原田憲一</p> <p>教育委員 中島美奈子 西島 豊 内浦有美</p> <p>高等学校等校長 寺田安孝（時習館） 鈴木敏夫（豊橋東） 山畑真樹（豊丘） 鈴木真紀（豊橋南） 牧野仁志（豊橋西） 脇田広信（豊橋工科） 間瀬泰宏（豊橋商業） 佐羽尾稔幸（豊橋高） 神本 聡（豊橋豊） 彦坂充俊（豊橋特別支援） 杉山富美子（くすのき特別支援学校） 満田康一（桜丘中） 伊藤貴章（藤ノ花）</p> <p>小中校長会 中村三木也（羽根井小） 羽生あゆみ（富士見小） 鈴木孝昌（豊岡中） 吉倉真紀（豊小） 河合厚志（中部中）</p> <p>事務局指定委員 石川和志（教育部長）</p> <p>※欠席者： 渡辺嘉郎（教育委員） 横山貴美（桜丘） 高倉嘉男（豊橋中央）</p>
オブザーバー	<p>野沢和代（東三河教育事務所主査） 山田素子（豊川市教育委員会指導主事）</p> <p>鈴木恭子（蒲郡市教育委員会指導主事） 白井純子（新城市教育委員会指導主事）</p> <p>鵜飼 毅（田原市教育委員会指導主事）</p>
事務局	鈴木大介（教育政策課長） 木全 功（教育政策課主幹） 他 7 名

次 第

- 1 協議事項
各分科会の今年度の活動状況と次年度の活動について
豊橋市小中高特連携教育推進協議会組織体制の見直しについて
- 2 報告事項
東三河小中高特連携教育推進協議会について
- 3 連絡事項
第 39 回豊橋市小中高特連携教育推進協議会について

議事録

(中島会長)

皆様こんにちは。お時間がまいりましたので、始めさせていただきます。

本日はご多用の中、ご出席いただきありがとうございます。ただいまから第38回豊橋市小中高特連携教育推進協議会を開催いたします。なお、本日公務により、渡辺嘉郎教育委員、桜丘高校の横山貴美校長先生、豊橋中央高校の高倉嘉男校長先生が欠席されます。また、本日は東三河教育事務所及び各市教育委員会からオブザーバーの皆様にお越しいただいておりますので、ご紹介をさせていただきます。

東三河教育事務所指導課主査、野沢和代様。

豊川市教育委員会学校教育課指導主事、山田素子様。

蒲郡市教育委員会学校教育課指導主事、鈴木恭子様。

新城市教育委員会学校教育課指導主事、白井純子様。

田原市教育委員会学校教育課指導主事、鶴飼毅様。

以上の皆様です。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、次第に従って進めてまいりたいと思います。協議事項1「各分科会の本年度の活動状況と次年度の活動」についてお配りした別冊の報告書に沿って進めさせていただきます。なお、この報告書は、市内全小中学校、市内の高等学校及び特別支援学校、東三河の市町村教育委員会の皆様にも後日送付させていただきますので、ご承知おきください。

それでは、今年度の活動状況と次年度の活動について、ご報告をいただきます。概ねの時間といたしまして、1分科会あたり、質疑応答も含めて10分程度で進行できればと考えております。はじめに、英語教育分科会について、委員長の豊岡中学校、鈴木孝昌校長先生から、報告をしていただきます。よろしく願いいたします。

(鈴木委員)

失礼します。豊岡中学校の鈴木でございます。それではお手元の資料の6ページ、活動報告書からお願いいたします。本年度の活動目標につきましては、昨年度のものを踏襲しております。活動方針は、① 公開授業・協議会を通じた相互交流の充実を図る。② 公開授業後の分科会では、小中高のつながりを意識して協議を行う。③ 英語部報による小中高特における授業や取り組みの情報発信を行うの3つを柱として行いました。本年度の活動状況、実績としましては、第1回の委員会にて本年度の活動方針の確認を行いました。また、第2回の委員会として、9月12日に岩西小学校にて小学校の授業研究会を行いました。小中学校、高等学校の教員合わせて50名が参加しました。この授業の様子については、9ページの資料2をご覧ください。豊橋商業高校の小川先生のレポートになります。特に、②スケジュール提示にありますが、小学校でのきめ細やかで視覚的な指示や、板書におけるスケジュール提示などについて、非常に効果的な環境整備というご意見をいただきました。高校の授業の際にも、小学校で行っているスケジュール提示について参考になったという声をいただいたことは大変よかったと思っています。一方、③のトレーニングの2行目にあります、ウォーミングアップ、そして知識の自動化を促すトレーニングという言葉は、小中学校の英語研究の中ではあまり出てこないフレーズであります。レポートからも小中学校の教員の学びになっていると感じております。まとめとして、9ページ下段の下から3行目に、今回の参加を通して今後の授業実践、授業改善につながる内容が記載されておりました。ありがとうございます。

した。

続きまして、6ページの活動状況についてお願いします。第3回として、10月20日に時習館高校での公開授業研究会への参加を行いました。この会には、30名の参加者がありました。10ページの資料③をご覧ください。中学校の教員にとって、大変プラスになった研究会となりました。時習館高校における圧倒的な英語力の授業を参観したことによって、資料にあるように、高校生が英語で自分の考えを簡潔にまとめたり、内容理解をもとに意見を交換したりする姿に触れ、中学校段階での基礎力の確実な定着の重要性を改めて感じたと思います。そこに、私たち中学校教員の英語教育に関する使命が集約されていると感じております。あわせて、11ページの資料④をご覧ください。時習館高校の手島先生の報告ですが、2週間後に行われた南稜中学校での研究授業を含めた報告書になっております。特に、高校においても、自分のレベルに応じて授業中に扱う教材を制作するといった、個別最適な学びという点において高校も配慮されているということを確認できた授業でした。

再度、6ページの活動状況について説明いたします。第4回は11月7日、南稜中学校において授業研究会を行いました。この会にも40名ほどが参加されました。11ページの資料④をご覧ください。時習館高校の手島先生の報告書の下段の4行に、本授業研究会の感想が記載されております。その中の2行目に、先生が生徒のライティング力強化のために特設した単元とお聞きしたとあります。授業者の熱意が届いたことが大変励みになっております。豊橋市の小中学校では、問題解決的な学習を推進しており、問題解決的な授業実践を全市で意識して取り組んでおります。その中で、南稜中学校の実践のような思い切った単元を組んで実践を進めていることを知っていただけたということはあるありがたいことだと思います。

6ページの活動の分析についてお願いいたします。分析の4、分科会以外の活動として、英語研究部が運営している中学生対象の「夏休み英語体験活動『I LOVE TOYOHASHI!』 English Camp」に、本年度も御津あおば高校の生徒のみなさんがボランティアとして参加してくださいました。コロナ禍で一度は中断しておりましたが、また以前のような活動の形を取り戻しつつあります。

次年度の課題として3つ挙げさせていただきました。1つ目、小中学校教員の高校授業研究会への参加者増員、高校教員の小中学校授業研究会への参加者増員です。参加者を増やすことは多忙化につながる部分もありますが、やはり研修に参加することは、授業力の向上としても非常に大切であると考えます。そこで、授業研究会の目的を事前に示すことで、参加者が目的をもって参加できるようになると同時に、参加者の増員に繋がるのではないかと考えております。また、2つ目として、授業研究会への参加による異校種の教員間の連携と交流の強化についてです。これも1つ目の課題と同様な対応を進めてまいりたいと考えております。そして、3つ目として、小中学校英語研究部が発行している「英語部報」を活用した小中高特連携に関する情報発信です。今現在、小中高特に関する情報の発信は、この英語部報のみとなっております。まずは、英語部報の発信の仕方を工夫できたらと考えております。また、英語部報での広報以外の方法を検討する必要があるのかなと思っています。なお、課題ではありませんが、今後は時習館中学校やとよはし中学と公立の小中学校との連携をどのように進めていくとよいかについても検討が必要だと考えています。たくさんの外国人居住者を抱える豊橋ならではのグローバル化について、多言語化、多国籍化している現状において、英語教育という視点だけでなく、幅広い視野で今後の課題として考えていきたいと思っています。長くなりましたが、以上でございます。

(中島会長)

ありがとうございました。それでは、ただいまの報告につきまして、ご意見ご質問をいただきたいと思います。

(西島委員)

11 ページの手島先生の報告書ですが、その中で谷田先生が行われた授業で、生徒自身が自分のレベルに応じて授業中に扱う教材を選択することができる手段というのは、すごく面白いなと思ったのですが、もう少し詳細を教えてくださいと思います。

(鈴木委員)

ご質問ありがとうございます。読み物の読解の資料なのですが、扱う部分は同じ部分でも、やや簡単にした資料と完全にそのままの資料で読み進めるというように、自身で難易度を選択することができるよう形で資料を用意したものとなっております。

(西島委員)

その読解のレベルを生徒自身が自分で選ぶことができるようにしているということですね。それはいろいろな科目でも、自分で選択するということはできると思います。とてもよいと思いました。以上です。

(中島委員)

ありがとうございます。他にございませんか。

それでは続きまして、理科学教育分科会にて、委員長の時習館高等学校寺田校長先生から報告をお願いいたします。

(寺田委員)

では 15 ページをお開きください。理科学教育の活動報告書でございます。従来は、5 回の分科会で開催しておりましたが、今回は回数を増やして実施しました。目的は、高校生が小学生に教える様子を小中学校の先生方にも参加して見ていただいたり、理科教育の連携をすすめるうえで大切にしたいことについて意見交流をしたりしたいと思い、これまで行っていた分科会を 2 回に分けて、内容を充実させていくという視点で進めました。

それでは、第 2 回をご覧ください。時習館スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 成果発表会です。改めてご紹介すると、本校が取り組んでいる SSH の成果を発表する会を毎年設けておりまして、そこに市内の小中学校、高校の先生方お招きし、ご覧いただくというものでございます。本校で実施しているものはなかなか評判もよいものとなっております。SSH は第 1 期、第 2 期、第 3 期、第 4 期、第 5 期と 5 か年計画で進めていくプログラムとなっております。今年は第 4 期となっております、なかなか歴史が長いものとなっております。時習館高校の取り組みは、全国的に見ても注目している取り組みをしている中で、その取り組みを豊橋市内の小中学校の先生方にご覧いただけるということは、我々にとっても光栄な会として考えており、私どもも力を込めて行っております。続けて第 5 回についてですが、中学校の理科研究部の授業公開です。こちらは、逆に私たち高校の教員が中学校の授業を参観させていただいて、その様子を垣間見るという機会となっております。中学校の問題解決的な学習の計画方法や、高校に入る前の児童生徒の様子を知ることができる大変貴重な

機会となっています。今後の高校、あるいは特別支援学校での授業について、改めて考える機会になっております。

この度新たに設けたのが第3回、第4回です。第4回は、理科実験講習会と称しまして、市教育委員会主催の夏季研修と実技講座に小中高特の理科学教育分科会が乗り入れる形で行いました。結果として、参加人数が10倍に増え、先生方にたくさんご参加いただいたことが何よりの実績だと思っております。参加者の声としましては、「初めて高校の授業を見ました」とか「小・中学校の授業を見ました」という声も多く取り上げられておりますので、すごく有意義な機会になっていたのではないかと思います。そして、今回強調したいのが第4回目です。時習館サイエンスフェスタトークセッションです。これは、SSHのプログラムの一環としての位置づけとなっております。のんほいパークを活用し、そこに時習館高校の生徒が行って、小中学校の生徒を対象とする実験教室や動物たちを見ながらサイエンスについて語るという場を開催したりしました。このサイエンスフェスタそのものもとても面白く、小中学校の先生方にご覧いただき、それと並行して、視聴覚教育センターでトークセッションを行いました。こちらに理科学教育分科会に所属されている先生方を含めて、小学校、中学校、高校、特別支援学校の先生方にも参加していただきました。それぞれが普段感じている理科教育に関する課題を共有したり、あるいは見通しを語り合ったり、未来について語り合ったりすることを行いました。その中で話題に出たのが、小学校、中学校、高校、特別支援学校だけではなく、生まれてから小学校に上がるまでの過程における幼稚園、保育園の子どもたちとの関わりを大事にしなければならないことや、高校を卒業して社会人の一歩手前となる大学との連携を十分に充実させる必要があるという話、社会人になった後も学び続ける場として博物館の活用ということも非常に重要なのではないかと語りもありました。そういったディスカッションの成果が、豊橋の小中高特連携教育の中に浸透していくのではないかとこの可能性を感じた会となりました。

続いて、17ページの中ほどをご覧ください。こんなコメントがあるので共有したいと思います。小中高の発達段階を理解しながら、子どもたちを育てていけるように心がけていきたい。これが豊橋市の取り組みのとても素晴らしいところと感じています。設置者の違いがある上に、小中学校と高校、特別支援学校に縦割りの見えない壁のようなものがあって、なかなか繋がることのできない感じがします。豊橋市以外のところで、小中高特の繋がりを大切に思っているという話をする度に、非常に感心していただけます。このことも踏まえて、小中高の発達段階を理解しながら取り組んでいく姿勢がすごく大切だと感じます。

19ページ中ほどの感想をご覧ください。高校の内容の講座だったが、中学でも活かせる部分はある。これからの教育活動の連携ができると生徒の進路への意識も高まると思うというコメントや、高校理科の内容を経験することで高校への接続を意識した授業立案にとっても参考になると思ったというコメントがございます。この気づきはすごく大事で、発達段階上の次の学校段階に移行することを意識しながら日常の授業設計をすることは極めて重要なことです。中でも、高校との系統性を理解し、中学校の授業の中で発展的に高校の内容も取り入れていくというコメントがあります。これは高校を中学校、中学校を小学校と読み変えていただくと、小中高の連携にそのまま当てはまると思います。私の中では、これが幼保との連携や大学との連携につながるとすごくよいと感じています。さらに、22ページにまいりまして、トークセッションの感想をご覧ください。今回の小中高に加えて、幼保の先生と特別支援学校の先生、大学の先生を加えると、幼保こ小中高特大の接続を図ることができそうであるということ、参加された先生方に気づいていただけたのが、この協議会の本当によ

いところであると感じております。もう少し拡大するお話になりますが、21 ページをご覧ください。視聴覚教育センターや自然史博物館など、理科の教育施設が地域の子どもや大人の学び続ける場となるように、学校と施設の連携を大切にしていきたいという感想があります。豊橋市の施設は、先輩方がずっと長い時間をかけて作り上げてきてくださったものです。様々な取り組みや一つ一つの積み重ねが、豊橋市の最大の強みだと認識しております。こういったつながりも大事に伝えていただきながら、この協議会がよい切り口となって、こういったことに安定的に取り組んでいくことができるのかについても取り上げていただければと思っております。

最後になりますが、この春から時習館附属中学校が開校することになります。つい先日、合格発表がありました。いよいよ70人の生徒たちがこの4月に向けて準備し、わくわくする思いで時習館中学の生徒としてスタートすることになります。この時習館附属中学校の活動も、豊橋市の小中高特連携教育推進協議会でもしっかりと踏み込んでいただいて、より発展していくことができるようにしていきたいと思っております。ありがとうございました。

(中島委員)

ありがとうございます。それではただいまのご報告につきまして、ご意見ご質問等ありましたらよろしく願いいたします。

(内浦委員)

時習館の文化祭に何度か参加させていただいていますが、本当にすごいです。時習館の文化祭はSSHの圧倒的なすごさがあります。テレビ番組かと思わせるような工夫された内容で、それを高校生が進めている。つい先日、技科大での取り組みも含め、本当に素晴らしいコンテンツがいっぱいあると感じています。質問というより期待を込めての発言になりますが、視聴覚センターの方や自然史博物館の方や技科大の先生方に公共の施設や大学との連携も重視しているという話でしたので、施設や大学の方たちとも交流していくという形も行っていただきたいと思っております。いかがでしょうか。

(寺田委員)

ありがとうございます。全く同感でございます。新たな枠組みを作って、すでに時習館からSSHをスキームとして、公共施設の方や大学の方々とのつながりを深めています。地域の子どもは地域で育てるということが目的なので、それが時習館であろうが、技科大であろうが、自然史博物館であろうが、どこが担ってもそれは大きな差はないと考えています。我々が保有するつながりをぜひ活用し、お声がけをいただければ積極的に協力させていただこうと思っております。

(中島委員)

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

それでは、特別支援教育分科会について、委員長のくすのき特別支援学校、杉山富美子校長先生からご報告をお願いいたします。

(杉山委員)

くすのき特別支援学校の杉山でございます。よろしく申し上げます。

特別支援教育分科会では、昨年度まで個別の教育支援計画と指導計画の改訂をしたり、それをどう活用したりしていくかということを検討してまいりました。かなり定着、浸透していると感じましたので、本年度については、幼保小中高がその後も含めて途切れない支援のためにどうしたらよいかということ、検討しようとなりました。その中で、それぞれの幼稚園・保育園、小学校、中学校、特別支援学校の先生たちから、保護者がどんな情報を知りたいのか、それを提供するために先生たちがどんなことを知っているか、それぞれの発達段階の立場で保護者に説明できるような資料作りをしたらどうかという話になり、中学校、高校卒業を見据えた進路についてのガイドブックのようなものを作成するという方向で1年間活動をしてきました。仮の題名として、切れ目のない支援のためにということで作成をしているところです。

活動内容については、1回目に今年度の取り組みの目標について検討いたしました。2回目は、幼稚園・保育園と小中学校と特別支援学校の3グループに分かれて、それぞれの学校や園でどんな情報を知りたいのか、どのように、どういったことを保護者に伝えるべきかについて情報交換いたしました。1次案として、大きな項目ができてきましたが、もう少し追加するとよい項目等、それぞれの立場で意見を出していただきました。そして、それをもとに次の案の検討をしているところです。3回目については、10月31日に本校が主管となり、本校を会場として東海地区特別支援学校知的障害校の研究大会を行いました。愛知県、静岡県、三重県、岐阜県の知的特別支援学校の先生たちの研究大会ということで、せっかくの機会ですので、特別支援教育分科会の委員の先生方にも参加していただくことになりました。公開授業と講演会への参加募集をかけ、小中学校の先生方にも30名ほど参加していただきました。4回目は、ガイドブックの第二次案の検討ということで、書面にて開催し、ただ今意見を集約しております。

分析として、進路ガイドブックについては3グループに分かれて内容の検討を行ったことで、それぞれの立場で必要な情報、知りたい情報、伝えたい情報が明確になったと思います。ただ、特別支援学校でどのような勉強をしているのか、どのような教育課程でどのような指導形態で学習しているのか、小学校と中学校でどのような評価過程、どのような指導形態で学習をしているのかということが、分科会委員の中でも正直よくわかっていないところがありました。そういった内容の情報交換もできたのではないかと思います。特に、保護者にとっては、目の前の子どもが将来どのような進路を辿っていくのか、とても気になりなっています。また、それぞれの発達段階でも不安に思っている方も多いと思います。それをきちんと説明できるような力を、先生方にもつけて欲しいなという思いもありまして、具体的な内容をまとめていくことで、互いにどのような教育課程で勉強しているのか、どのような指導形態で、どのような学習をしているのかということが少し見えてきたのではないかと思います。今年度の研究大会の公開授業の参加についても、特別支援学校での授業の様子も具体的に見ていただけたのは大変よかったと思います。

次年度へ向けて、ガイドブックはまだ第2案で粗いところがありますので、もう少し具体的に情報を精査、整理していき、それぞれの現場の先生方がきちんと説明できるような資料となるように進めていきたいと思っております。今後について、今は当分科会だけで検討してきましたが、もう少し広く意見をもらい、より使いやすいものにするために、どのようにしていくとよいかについて検討していきたいと思っております。題名については、仮でガイドブックとしていますが、ガイドブック本として冊子で作成をするのか、データとしてそれぞれの園や学校で活用できるようにするのか、また送付する方法についても今後検討していきたいと思

ます。以上です。

(中島委員)

ありがとうございます。ただいまの報告につきまして、ご意見ご質問ありましたらお願いいたします。

それでは続きまして、言語能力分科会、委員長の豊小学校、吉倉眞紀校長先生、よろしくお願ひいたします。

(吉倉委員)

豊小学校の吉倉です。言語能力分科会ですが、今年度の始めに紹介させていただきました言語活動ハンドブックを各学校に配付しまして、いかにして活用していただくかというところに力を入れてまいりました。冊数に限りがあるということで、職員一人一人に配付することができておりませんが、各校で初任者や教務主任の先生方を中心に活用していただくような形をお願いをして、5月の中旬以降に配付しました。その後、第1回の分科会がありましたので、どのように調整をしていけば現場の先生に使っていただけるのかということを検討していきました。実際にハンドブックを活用している授業の参観をするということを活動の中にいれたかったのですが、原稿を作成しているメンバーではそこまでの時間が取れなかったため、このハンドブックを意識した授業を小中高の先生で見合う機会を設けたいと考えました。これに関しては、豊橋市の国語研究部の授業研究会で扱うことにしました。授業者と相談し、ハンドブックの中にある「考えを整理し、視覚化するための思考ツール」の三角ロジックを使って説明文の読み取りをするという内容で授業実践を行うことにし、その授業を言語能力分科会の先生方に参観していただくということになりました。その後、第3回までの間に委員の先生方に実際に授業で扱っていただいたり、情報を共有したりしました。ハンドブックの中にコラムがあるのですが、サイレントマジョリティという内容のコラムを取り扱って、子どもたちがどんな感想を持って、考えを深めたのかを第3回の分科会の時には発表してくださいました。実際の授業場面での様子を情報共有することができました。また、夏休みには小学校国語研究部の授業研究会に向けて、研究部員で行う授業案の検討などの時にもハンドブックを持って来ていただいて、実際にみんなで三角ロジックを使い、その効果や授業での効果的な活用方法について意見交流をしていただきました。私からも、他のページについて説明し、ぜひ活用してくださいと宣伝させていただきました。

そして、研究授業は12月2日に行いましたが、28ページに詳しく書いております。小学校5年生で「『弱いロボット』だからできること」という説明的文章があります。ロボットと未来のあり方、自分たちの関わり方ということ、授業者が子どもたちと三角ロジックを使って、自分の考えと教科書から抜き出した根拠事実となる言葉、どうしてそのように考えたのかを記していくというような形で活用していました。説明文の学びにも使えますし、学んだ後に感想について話し合いをする場でも、この三角ロジックを使っておりました。実際に授業を見ましたが、子どもたちはなぜそう思うのか、どこから考えたのかということ、自分の考えを整理するツールとしてうまく使っているという印象を受けました。授業研究会に参加した委員の感想も資料に掲載しましたが、とてもよい学びの機会になったと感じております。授業後に国語研究部の協議会に参加させていただきました。グループでの話し合いに言語能力分科会の委員も参加させていただき、小学校、中学校、高校の先生方が情報共有する場にもなりましたし、とてもよい刺激になったという感想がありました。中には、この

思考ツールは、他の授業などいろいろな場面で活用ができたらという意見もありました。

このハンドブックをすべて使ったというわけではありませんが、このハンドブックを見ることで、若い先生が目的に合わせ、困ったときに見ることができる1冊として使っていたければと思っております。そして、どのような活動ができるかということを考え、リーフレットにまとめる活動を行いました。そのリーフレットが29ページです。1月13日に検討したのですが、言語能力分科会委員が集まって、修正が最終段階に進んでいるところです。この修正が終わりましたら、2月下旬には市内の学校へ配付する予定であります。どんな場でどのように使うとよいかを、高等学校、小中学校、特別支援学校や特別支援学級と分けて紹介することができるリーフレットとしてまとめました。言語能力分科会につきましては、ハンドブックを作成し、活用方法についてまとめて一区切りになります。実際にハンドブックを作成してみて、先生方のいろいろな努力や工夫や苦勞が詰まった1冊になっていますので、今後もぜひ活用していただければと思っております。中学生や高校生は、ハンドブックを開けば、これまで学んできたポイントを必要なところで確認し、活用していけるのではないかという意見も委員の中にあります。ただ、これはコピーを無断複写転用禁止になりますので、ページ指定や一部を許可していただければ、授業の中でも活用できるようになると考えています。

全体会や分科会で、私自身もあまり接することのなかった高校の先生方と関わることができました。分科会でもいろいろな講師の方と交流することができました。分科会の委員の皆様には、これからもつながりを大切に、豊橋の子どもは豊橋で育てるということをぜひ続けてくださいと伝えさせていただきました。ありがとうございました。

(中島委員)

ありがとうございました。ただいまのご報告につきまして、ご意見ご質問等ありましたらお願いいたします。

それでは何かございましたら、まとめのところをお願いいたします。次の協議事項に進めていきたいと思っております。豊橋市小中高等連携教育推進協議会の組織体制の見直しについて、事務局からお願いいたします。

(教育政策課長)

よろしく申し上げます。別紙レジュメの2ページをご覧ください。組織体制の見直しについては、本協議会の前に書面にてご意見をいただきました。お忙しい中、ご意見をいただきましてありがとうございました。いただいたご意見をもとに、見直し、修正したものをご提案させていただきます。

本協議会の組織体制の見直しですが、大きく2点あります。1点目は分科会を一つ新設し、現行の分科会を一つ減らしたいということ、2点目は分科会の入れ替えに伴う委員の見直しです。1点目の分科会の新設ですが、資料の「1. 趣旨・目的」にあります通り、本市において、小学校低学年における小1プロブレムや不登校の低年齢化といった新たな課題が生じていることから、こうした課題解決に向け、幼保こども園との効果的な連携を行いたいというものです。幼保こども園との連携を図ることにより、新たな異校種連携の広がりが期待できるほか、豊橋市における幼年期から高等学校卒業までの教育連携を一層高めることにつなげたいと考えております。続いて、2の(1)になります。こういった状況を踏まえ、幼年期教育分科会を新設したいと考えております。新設する幼年期教育分科会についてですが、本

市の学校教育課が所管しております「幼年期教育研究委員会」を分科会に移行する形をとることで、関係者の負担軽減を図りたいと考えております。分科会の新設に伴う組織体制案につきましては、3（1）をご覧ください。幼年期教育分科会を新設し、現行の言語能力分科会と入れ替える案となっております。分科会については以上でございます。

続いて2点目、委員の見直し案です。3ページ目の別紙1をご覧ください。委員の皆さまには年末から先月中旬にかけて事前に意見をお伺いさせていただきました。本日お示しの見直し案は、いただいた意見を踏まえて新たに作成したものとなっております。まず、幼年期教育分科会の新設に伴い、「幼保こ」の代表者及び子ども未来部長の合計3名に新たな委員としてご参加いただきたいと考えております。また、新規に開校した「とよはし中学校」と4月から開校する「時習館中学校」の県立中学校からも代表1名に委員としてご参加いただきたいと考えております。全体で委員が4名増えることになり、全体の委員数も30名の大所帯となることから、委員の皆様から頂いた意見をもとに事務局で見直しを行い、東三河高等学校代表者を現行の7名から4名に精選させていただきました。具体的には、東三河高等学校長会の代表1名、普通科の代表1名、普通科専門学科並置校及び総合学科設置校から輪番で代表1名、専門学科設置校から輪番で代表1名としております。協議会委員の見直しについては以上でございます。最後になりますが、組織体制の見直しに伴い、組織の名称は少し長くなりますが、「豊橋市幼保こ小中高特連携教育推進協議会」を考えております。なお、4ページ以降は、組織体制の見直しに伴う規約の変更案になっておりますので、ご確認をいただければと思います。説明は以上です。ご審議をよろしく願いいたします。

（中島委員）

ただいまの提案につきまして、ご意見ご質問等はございませんか。よろしいですか。

それでは、豊橋市幼保こ小中高特連携教育推進協議会の組織体制の見直しにつきまして、事務局の提案のように進めてまいりたいと思います。令和8年度から新体制となり、次回の全体会で説明があると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは続きまして、報告事項 東三河小中高特連携教育推進協議会の事業について、東三河教育事務所指導課主査の野沢様からご説明をよろしくお願いいたします。

（東三河教育事務所 野沢主査）

今日は本会議に参加させていただきましてありがとうございます。私は東三河小中高特連携推進協議会で事務局を務めております東三河教育事務所の野沢と申します。それでは私どもの事業について、本年度の取り組みの様子をご報告させていただきます。

冊子の30ページをご覧ください。具体事業の①ほの国未来セッションでは、Web開催により東三河の高校を卒業し社会で活躍している先輩のインタビュー動画や、中学生から寄せられた質問に対する方向性の回答を載せた質問ボックス等を掲載し、11月から3月中旬まで公開しています。また、Web上でアンケートを実施しており、生徒からの声を大切にしています。今後のキャリア教育や進路学習の授業で活用するなど、生徒が将来に夢や目標をいただくきっかけにさせていただきたいと考えています。

31ページをご覧ください。具体事業②異校種授業交流会は、昨年度から始めた事業で2年目を迎えました。異なる校種の授業参観や協議を通して、同じ東三河の子どもを育てていくという意識を共有することや、自校での子どもの見方や接し方、授業づくりに生かすことを目的に開催しています。今年度は田原市立東部中学校と豊川工科高校で授業公開を行い、東

三管内の小・中学校、高校特別支援学校の教員が参加しました。サポートの授業を初めて参観する参加者も多く、授業後の協議会では、様々な教師の視点で現状や思いを共有することができ、とてもよい機会となりました。所属校の先生方とも共有し、明日の授業づくりに生かしたいといった感想が聞かれ、意義深い取り組みになっていると感じています。

続いて、具体事業③専門学科を有する県立高校や特別支援学校における初任者研修では、キャリア教育に関しては、農業高校や田口高校、特別支援教育については、豊橋特別支援学校において研修を行いました。講話や校内見学、授業参観グループ協議等を実施し、各学校での取り組みや学習の様子、児童生徒への支援などについて幅広く学び、視野を広げることができました。なお、次年度の計画につきましては、今後予定している東三河小中高連携教育推進協議会で協議し決定してまいります。以上になります。

(中島委員)

ありがとうございます。

ただいまのご説明につきまして、ご質問等ございましたらよろしくお願ひいたします。

(寺田委員)

時習館の寺田でございます。東三河小中高特連携教育推進協議会にも同じく参加させていただきまして、とてもすばらしい協議会だということをこの場で改めて申し上げたいと思います。その上で、豊橋市小中高特の協議会と東三河小中高特の協議会が、それぞれの独自性や個性があると同時に、共通性もあるでしょうし、設置者が違うがゆえに、どうしてもそれぞれ独立して進めている傾向があるように感じられるところがあります。互いにとってメリットがあるような活動については、共通理解をしたうえで進めることもよいかもしれません。

そうした中で、ぜひお願いしたいと思っていることがあります。時習館附属中学校が中高一貫教育を行っていきます。県立中学校ですので、東三河におけるこの協議会の趣旨、目的に十分に合致するのではないかと考えています。豊橋市内にあるという立地条件を活用して、豊橋市と東三河がコラボして豊橋市の協議会と一緒に参画することになるとよいと思っています。いずれにしても、これからの教員の資質向上や切れ目のない繋がりをアップするためには、いろいろな状況を活用する必要があると考えております。既存の取り組みを大事にすると同時に、豊橋市と東三河が協働して、時代時代に応じて求められていることやニーズに基づいた取り組みを進めていくことを期待しております。ぜひお願いいたします。

(野沢主査)

貴重なご意見ありがとうございます。庁内に持ち帰り検討させていただきたいと思っております。この協議会に参加させていただき、大変勉強になりました。ありがとうございます。

(中島委員)

皆様、今日は貴重なご意見をいただきました。ありがとうございます。

本日いただきましたご意見を参考に、次年度さらに充実したものにしていきたいと思っております。全体を通して、何かご意見ご質問、今後の分科会活動についてのご提案などございましたら、教育政策課担当までご連絡をいただけたらと思っております。

それでは、最後に3の連絡事項に移ります。事務局、お願いいたします。

(教育政策課長)

最後に、連絡事項です。第 39 回小中高特連携教育推進協議会の開催についてお願いいたします。次回の開催につきましては、現在のところ 5 月 25 日の月曜日で調整しております。不都合があるようでしたら、事務局にご連絡をいただけたらと思います。新年度になりましたら、人事異動等を踏まえまして、改めて本協議会並びに分科会へ委員等を委嘱させていただく予定でありますので、ご承知おきいただけたらと思います。以上です。

(中島委員)

ありがとうございました。それでは以上をもちまして、第 38 回豊橋市小中高特連携教育推進協議会を終了いたします。ありがとうございました。